

ロボット科

キャリアデザイン1

| | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|----|----------|----|----|----|-----|----|----|---|
| 対象 | 1年次 | 開講期 | 通年 | 区分 | 選1 | 種別 | 講義 | 時間数 | 30 | 単位 | 2 |
| 担当教員 | 石川 | | | 実務 経験 | 無 | 職種 | | | | | |

授業概要

就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。

到達目標

日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会に出てから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、品質管理の重要性を理解することなどができるようになることを目標にしており、併せて日本規格協会が実施する品質管理検定試験の合格によるキャリアアップ実現を目標にしている。

授業方法

社会人として知っておくべき仕事の進め方や品質管理に関する用語、企業活動の基本常識を理解し、これを日々の学習や生活の中に取り入れ、実践していくことを目指し授業を進める。この授業で学ぶ、P D C Aや報告・連絡・相談（ほうれんそう）、改善活動、5 W 1 Hなど、日々の学習や報告書作成にも役立てていただきたい。安全衛生（ヒヤリハット、K Y活動）の知識は、ものづくりの実技科目履修の際に特に意識して取り組んで欲しい

成績評価方法

試験・課題（50%）試験と課題を総合的に評価する小テスト（20%）授業内容の理解度を確認するために実施するレポート（10%）授業内容の理解度を確認するために実施する成果発表（口頭・実技）（10%）授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する平常点（10%）積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

履修上の注意

キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、社会の動きや個別企業の状況などを概説するので、日々、社会の情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。

教科書教材

品質管理検定（Q C 検定）4級の手引き、日本規格協会

| 回数 | 授業計画 |
|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：この科目の位置づけ、学習内容、到達目標を理解する |
| 第2回 | 企業活動の基本（1）：製品とサービス、職場における総合的な品質を理解する |
| 第3回 | 企業活動の基本（2）：報告・連絡・相談、5 W 1 Hの重要性を理解する |

| | |
|------|---|
| 第4回 | 企業活動の基本（3）：企業生活のマナー、規則と標準（就業規則を含む）および安全衛生の意識を養う |
| 第5回 | 企業活動の基本（4）：三現主義、5 ゲン主義、5 S を理解する |
| 第6回 | 品質管理の実践（1）：品質とその重要性、品質管理の考え方を養う |
| 第7回 | 品質管理の実践（2）：お客様満足、苦情、クレームおよび問題と課題を理解する |
| 第8回 | 品質管理の実践（3）：管理活動、仕事の進め方（P D C A）を理解する |
| 第9回 | 品質管理の実践（4）：改善、Q C ストーリー、3 ム、小集団活動と重点思考を理解する |
| 第10回 | 品質管理の実践（5）：前工程と後工程、工程の5 Mと異常について理解する |
| 第11回 | 品質管理の実践（6）：適合、不適合と検査の種類、ロットの合格・不合格を理解する |
| 第12回 | 品質管理の実践（7）：標準化、業務に関する標準、品物に関する標準を理解する |
| 第13回 | 品質管理の手法：データ種類、データの取り方、まとめ方を理解する |
| 第14回 | 品質管理の手法：Q C 7 つ道具を理解し、活用できるようになる |
| 第15回 | まとめ：全体のまとめ |